国語　指導改善ポイント

もやっと

文章を読んで考えたことを説明する場面で、
根拠を明確にして説明できる
ようにするにはどう指導すればいいのかな。

まずは…

ポイント

文章を読む目的を確認し、どのような語や文に着目するとよいか指導します。

【発問例】(…という目的)のためには、どのような語や文に着目して読むとよいですか？

(例) 主人公の人柄を想像するために読む
⇒ 会話や行動の描写に着目

(例) 文章の構成や表現の効果について考えをもつために読む
⇒ 文章の構成や表現に着目

次に…

ポイント

着目した語や文と自分の考えを結び付けて説明するように指導します。

【発問例】着目した語や文からどのようなことが分かったか、説明してみましょう。

小・国語 【事例①】授業アイデア

学年	第３学年
教材名	三年とうげ
本時の位置	３／６時

・文章を読む目的を確認しましょう。
・着目した語や文と考えをつなげて説明するよう指導しましょう。

すっきり

本時の目標
「ふとんにもぐりこみ」「ふとんからはね起きる」などの行動や様子を表す言葉に着目して、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像することができる。

【学習活動】
1 前時の学習内容を振り返り、本時の課題を確認する。

「ふとんにもぐりこみ」ぶるぶる震えていたおじいさんが、話の最後には三年とうげに行って「わざとひっくり返り」転んだという部分が面白いです。

おじいさんの行動や出来事に着目して、気持ちがどのように変わっていったのかを考えよう。

2 課題に対する自分の考えをまとめ、交流する。

「ふとんにもぐりこみ」という言葉から、それくらい転んだことがショックだったおじいさんなのに、トルトリの言葉をきっかけに、ふとんからはね起きて、わざと転んでみようという気持ちに変化したところが面白いです。
最後に「けろけろけろっとした顔」と書いてあって、元気になったことを表す言葉も面白いと思います。

3 もう一度、考えを書き直したり加えたりする。

4 本時のまとめをする。

「発問」によって思考を焦点化しましょう！

◆文章を読む目的を確認し、着目する語や文を指導します。

〔ここでの発問〕

単元の目標にもある、**物語の「面白いところ」**はどんなところでしたか？

★「根拠を明確にする」指導ポイント★

文章を読み、自分の考えを根拠をもとに説明する上で、その根拠を文章の中から適切に選ぶ必要があります。
そのためには、文章を読む目的を確認し、どのような語や文に着目して読むとよいかを指導します。

「変化」を捉えるにはどの語とどの語を選んで比べればよいですか？ → 根拠 / 考え

物語の面白さを見つけるためには、おじいさんの**行動や様子の「変化」**に着目するとよさそうですね。そのために、**会話や行動、様子の変化がわかる語や文**を見つけましょう。

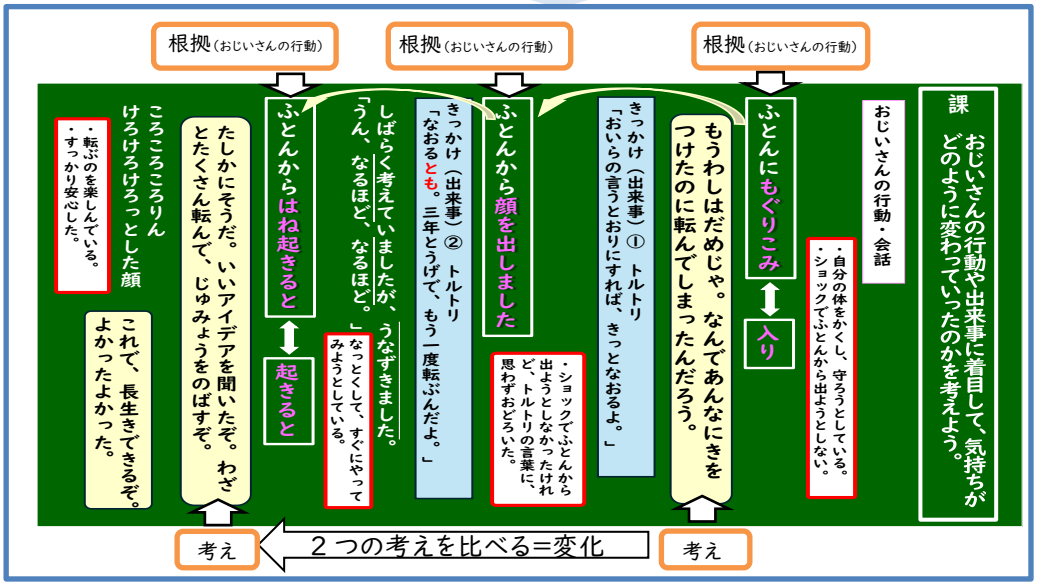
◆着目した語や文と自分の考えを結び付けて説明するように指導します。

〔ここでの発問〕

あなたが面白いと考えたところを、おじいさんの**行動や様子を表す語や文を結び付けて、黒板の矢印を参考にしながら**話してみましょう。

「板書」によって思考を整理しましょう！

※板書例



小・国語 【事例①】単元の指導と評価の計画

学年	第３学年
教材名	三年とうげ

○指導に生かす評価…目標の達成のために、個の学習状況を把握し、必要な指導・支援を行うための評価
●記録に残す評価‥‥目標の達成状況が適切に見取れる場面で、全員分の記録を残し、評定に用いる評価

1　単元の目標

・引用の仕方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ
・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。〔知識及び技能〕(3)オ
・登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

2　単元の評価規準　※省略

3　指導と評価の計画（全６時間）　○・・・指導に生かす評価　●・・・記録に残す評価

時間	主な学習活動・内容	知	思	態	評価規準
1	・これまでに読んだり聞いたりした民話や昔話について伝え合う。 ・自分の紹介したい民話や昔話を選び、紹介カードの作成に向けた学習の見通しをもつ。 登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしょうかいしよう。	○(3)オ			・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 ・登場人物やあらすじなど、物語の内容をおおまかに捉えるとともに、お気に入りの民話や昔話を選び、友達に紹介するための学習計画を立てている。
2	・「三年とうげの言い伝え」「登場人物」「出来事」に着目して内容を捉える。 ・自分の選んだ民話や昔話を読み進める。		○C エ		・三年とうげの言い伝え、登場人物の行動や気持ち、出来事に着目して、物語の内容を捉えている。
3 本時	・出来事や登場人物の言動、言葉の使われ方、文の調子に着目して、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像できる。 ・自分の選んだ民話や昔話を読み進める。		●C エ	●	・「ふとんにもぐり込み」「ふとんからはね起き」などの言葉に着目し、おじいさんの気持ちの変化を具体的に想像している。 ・進んで出来事や登場人物の言動、言葉の使われ方、文の調子に着目して文章を読み、これまで学習したことを生かして登場人物の気持ちの変化を具体的に想像しようとしている。
4	・「三年とうげ」のおもしろいと感じた部分を伝え合う。 ・自分の選んだ民話や昔話を読み進める。		●C オ		・物語の組み立てやおじいさんの変化、木のかげから聞こえてきた不思議な歌など、おもしろいと感じた部分とその理由について自分の考えを伝え合っている。
5	・出来事、登場人物の言動、言葉の使われ方、文の調子に着目して、自分の選んだ民話や昔話のおもしろさをまとめる。	●(2)イ	○C オ		・引用の仕方について理解している。 ・「登場人物や大きな出来事」「言葉の使われ方」など、おもしろいと感じたところと、その理由を入れながら、自分の選んだ本の紹介カードを書きまとめている。
6	・自分の選んだ民話や昔話の紹介カードを読み合い、気付いたことや感想をまとめる。 ・単元のまとめをする。	●(3)オ			・紹介カードを読み合い、仲間の選んだ様々な民話に触れることで、読書の幅を広げるとともに、読書が自分の世界を広げることにつながることに気付いている。

小・国語 【事例②】授業アイデア

学年	第４学年
教材名	ごんぎつね
本時の位置	６／８時

・文章を読む目的を確認しましょう。
・着目した語や文と考えをつなげて説明するよう指導しましょう。

すっきり

本時の目標

ごんと兵十の様子を表す言葉に着目することで、気持ちの変化やすれ違いに気付き、最後の一文が死をもってでしか通じあえなかった深い悲しみを強調していることを読み取ることができる。

【学習活動】

1　前時の学習内容を振り返り、本時の課題を確認する。

ごんや兵十の会話や行動、周りの様子を表す言葉にも着目しました。

ごんが兵十にうたれてしまう場面でのごんと兵十の気持ちを読み取ろう。

2　課題に対する自分の考えをまとめ、交流する。

辞書を引いたら「取り落とす」は、無意識で手から落ちる様子だという意味だと分かりました。**「ばたり」とつなげると**、手に力が入らず火縄銃を持っていられないくらい、自分のしたことを後悔しているということが分かるから、なんてことをしてしまったんだと、自分を責める気持ちがあると考えました。

3　もう一度、考えを書き直したり加えたりする。

4　本時のまとめをする。

「発問」によって思考を焦点化しましょう！

◆文章を読む目的を確認し、着目する語や文を指導します。

〔ここでの発問〕

この単元では物語の結末についての感想を書くために、登場人物の心情が大きく変化した場面を読み、考えをまとめてきましたね。
前の時間は**どのような言葉に着目して読みましたか？**

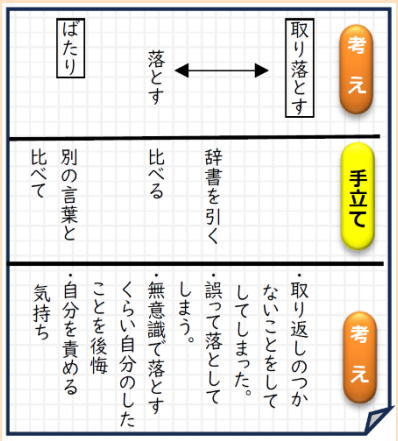
◆着目した語や文と自分の考えを結び付けて説明するように指導します。

★「根拠を明確にする」指導ポイント★

「着目した語や文」を根拠にして「考え」をもつには、次の手立てが有効です。
着目した語や文をノート等に整理します。

【手立て(例)】
・動作で表して
・挿絵とつなげて
・似た経験と比べて
・辞書の意味を付け加えて
・似た言葉に置き換えて
・別の言葉を加えて

根拠 → 考え

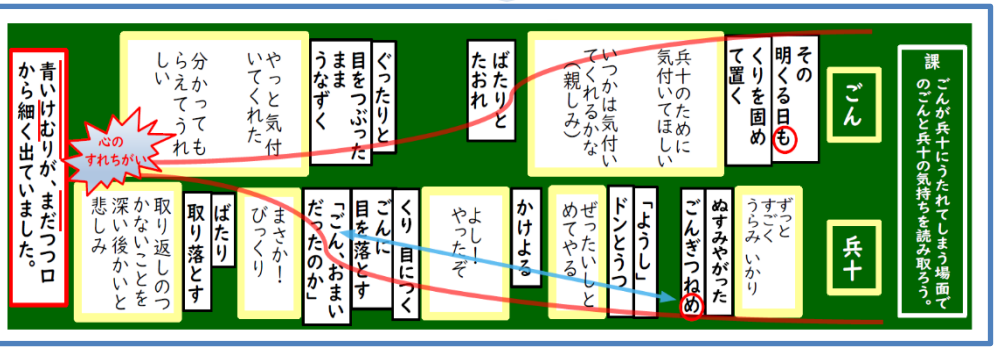


〔ここでの発問〕

「取り落とす」と「落とす」とは違うのでしょうか？**言葉の意味を辞書で調べたり、別の言葉とつなげたりして**考えると、より深く気持ちが想像できますね。

「板書」によって思考を整理しましょう！

※板書例



小・国語 【事例②】単元の指導と評価の計画

学年	第４学年
教材名	ごんぎつね

○指導に生かす評価…目標の達成のために、個の学習状況を把握し、必要な指導・支援を行うための評価
●記録に残す評価‥‥目標の達成状況が適切に見取れる場面で、全員分の記録を残し、評定に用いる評価

１　単元の目標

・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
・登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の評価規準　※省略

３　指導と評価の計画（全８時間）　○・・・指導に生かす評価　●・・・記録に残す評価

時間	主な学習活動・内容	知	思	態	評価規準
1 2 3	・学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。 ・本文を読み、内容の大体を捉える。 ・初発の感想を書き、読み合う。 ・学習課題を確認する。 ごんと兵十の気持ちの変化を捉え、物語の結末についての感想を文章にまとめよう。	○(1)オ			・場面の様子や登場人物の言動、気持ちや様子などを表す言葉を取り上げ、言葉の意味を調べたり他の言葉と比較したりして分かったことをノートに記述し、語彙を豊かにしている。
4	・ごんや兵十の気持ちが大きく変化した場面はどこかについて考える。 ごんがつぐないを始める場面 ごんが兵十にうたれてしまう場面		○Cエ		・ごんと兵十の様子や行動、気持ちのが大きく変化した場面について具体的な叙述を根拠にしながら考えている。
5	・うなぎのいたずらへのつぐないを始めるごんと兵十の様子や行動、気持ちを想像する。（３場面）	●(1)オ	○Cエ		・場面の様子や登場人物の言動、気持ちや様子などを表す言葉を取り上げそれらを比べたりつなげたりしながら語句の量を増し、話したり書いたりして活用することを通して、語彙を豊かにしている。 ・ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について、具体的な叙述を根拠にしながら想像している。
6 本時	・ごんが兵十に撃たれてしまう場面のごんと兵十の気持ちの変化を考える。（6場面） ・最後の一文（情景描写）の効果について、仲間と考えを交流する。	○(1)オ	●Cエ		・ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、理由を明確にしながら考えている。
7 ・ 8	・初発の感想を振り返り、比較しながら、物語の結末について感じたこととそのように感じた書きぶりを取り上げ、考えたことを文章にまとめる。 ・仲間と感想を交流し、感じたことを伝え合う。 ・単元のまとめをする。		●Cオ	●	・呼称の変化や情景描写等の表現を根拠に、物語の結末について、書きぶりを取り上げたり自己と比較したりして、感想や考えをノートにまとめている。 ・進んで物語の結末について感じたことや考えたことをまとめ、学習したことを生かして仲間に伝えようとしている。

中・国語 【事例③】授業アイデア

学年	第１学年
教材名	二十歳になった日
本時の位置	３・４／４時

・文章を読む目的を確認しましょう。
・着目した語や文と考えをつなげて説明するよう指導しましょう。

すっきり

本時の目標
筆者の思いや考えがどのように書かれているかに着目し、本文中の具体的な記述を挙げながら、構成や表現の効果について考えることができる。

【学習活動】
1 前時の学習内容を振り返り、本時の課題を確認する。

例えば、「ひとり」という語が 7 回繰り返されているという工夫があります。

筆者が「二十歳になった日」に感じたことや考えたことを伝えるためにしている、構成や表現の工夫とその効果を考えよう。

2 課題に対する自分の考えをまとめ、交流する。

「ひとり」という語は、本文の中で 7 回繰り返されていることから、**それだけ強調したいといえます。さらに、**前の時間の学習で学んだ筆者の思いや考えと**つなげると、**「自分の力で生きていく」という決意が強調される効果があると考えました。

3 もう一度、考えを書き直したり加えたりする。

4 単元の学習を振り返り、随筆を書くときに生かしたいことなどを整理する。

「発問」によって思考を焦点化しましょう！

◆文章を読む目的を確認し、着目する語や文を指導します。

〔ここでの発問〕
今日は、筆者が感じたことや考えたことを伝えるためにしている、**構成や表現の工夫とその効果を考えましょう。本文には、どのような表現の工夫がされていますか？**その効果を考えながら、もう一度文章全体を読んでいきましょう。

◆着目した語や文と自分の考えを結び付けて説明するように指導します。

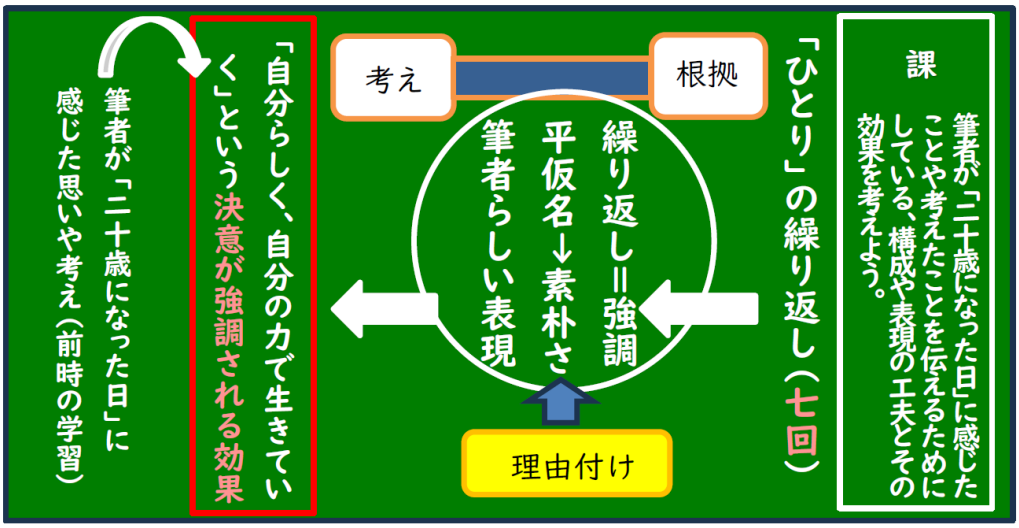
★「根拠を明確にする」指導ポイント★
考えと根拠がつながっているということに加え、それらがどのようにつながるのかを説明するよう問い返します。

【理由付けの発問(例)】
・着目した語や文から、なぜそのように考えたのですか？
・着目した語や文とあなたの考えはどのようにつながっていますか？

〔ここでの発問〕
着目した**「ひとり」という語**から、**「決意が強調される効果」**と考えたのは、**なぜですか？**

「板書」によって思考を整理しましょう！

※板書例（一部）



中・国語 【事例③】単元の指導と評価の計画

学年	第１学年
教材名	二十歳になった日

○指導に生かす評価…目標の達成のために、個の学習状況を把握し、必要な指導・支援を行うための評価
●記録に残す評価‥‥目標の達成状況が適切に見取れる場面で、全員分の記録を残し、評定に用いる評価

１　単元の目標

・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)ウ

・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の評価規準　※省略

３　指導と評価の計画（全４時間）　○・・・指導に生かす評価　●・・・記録に残す評価

時間	主な学習活動・内容	知	思	態	評価規準
1	・「随筆」の定義を確認する。 ・単元の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・作品を通読し、話の大体を捉える。 ・作品の構成を確認する。 ・印象に残った表現を見付け、その理由を書く。 筆者独自のものの見方や感じ方を捉え、語感を磨きながら、随筆の構成や表現の効果について考えよう。		○ C エ		・「現在→過去の回想→現在」という構成になっていることを捉えるとともに、印象に残った表現とその理由を考えている。
2	・心情を表す語句や表現などに着目し、筆者が「二十歳になった日」に感じたことを挙げる。	● (1) ウ			・心情を表す語句や表現に着目し、意味を調べたり類義語と比較したりして、感じたことを言語化することで、語感を磨き語彙を豊かにしている。
3 ・ 4 本時	・前時読み取った筆者の思いや考えが、「どう書かれているか」に着目して、構成や表現の効果を考える。 ・各自が見つけた構成や表現とその効果を語り合い、共有したり整理したりする。 ・学習を振り返り、印象に残った表現や随筆の特徴、随筆を書くときに生かしたいことを整理する。 ・単元のまとめをする。		● C エ	●	・具体的な記述を挙げながら、筆者の思いや考えとつなげて、構成や表現の効果を考えている。 ・進んで構成や表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方や感じ方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。